



令和5年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

令和4年7月27日

上場会社名 東海旅客鉄道株式会社
コード番号 9022 URL <https://jr-central.co.jp>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金子 慎

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員広報部長 (氏名) 木村 中

TEL 052-564-2549

四半期報告書提出予定日 令和4年8月3日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年3月期第1四半期の連結業績(令和4年4月1日～令和4年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年3月期第1四半期	309,342	71.3	83,540		66,838		47,001	
4年3月期第1四半期	180,628	40.3	25,306		40,188		28,442	

(注) 包括利益 5年3月期第1四半期 44,531百万円 (%) 4年3月期第1四半期 33,185百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年3月期第1四半期	238.83	
4年3月期第1四半期	144.53	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年3月期第1四半期	9,403,946	3,640,876	38.2
4年3月期	9,450,519	3,609,252	37.7

(参考) 自己資本 5年3月期第1四半期 3,595,264百万円 4年3月期 3,564,078百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年3月期		65.00		65.00	130.00
5年3月期					
5年3月期(予想)		65.00		65.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年3月期の連結業績予想(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,332,000	42.4	290,000		217,000		146,000		741.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	5年3月期1Q	206,000,000 株	4年3月期	206,000,000 株
期末自己株式数	5年3月期1Q	9,200,851 株	4年3月期	9,200,851 株
期中平均株式数(四半期累計)	5年3月期1Q	196,799,149 株	4年3月期1Q	196,792,880 株

(注) 期中平均株式数の計算において控除する自己株式には、株式給付信託(従業員持株会処分型)にかかる信託口が保有する当社株式を含めていません(5年3月期1Q - 株、4年3月期1Q 6,286 株)。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び計画に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の経済情勢等によって予想数値と異なる場合があります。
2. 四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ホームページにも掲載することとしています。また、同日開催予定のアナリスト向け説明会で使用する資料についても、TDnet及び当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結貸借対照表関係)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい経営環境が続く中、当社グループは、感染拡大防止に取り組みながら、事業の中核である鉄道事業における安全・安定輸送の確保を最優先に、サービスの一層の充実や新しい旅行スタイルの提案による需要喚起、社員の業務遂行能力の向上、設備の強化に取り組みました。また、これまでも不断に取り組んできた設備投資を含めた業務執行全般にわたる効率化・低コスト化を一層強化するとともに、安全・安定輸送の確保や輸送サービスの提供に支障しないことを前提に、可能な限りの費用削減を行いました。さらに、経営体力の再強化を図るため、ICTをフルに活用し、最も望ましい業務体制を構築する「業務改革」を推進しました。

東海道新幹線については、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に取り組みながら、「のぞみ12本ダイヤ」を活用して、需要にあわせた弾力的な列車設定を行いました。また、引き続き大規模改修工事や脱線・逸脱防止対策をはじめとする地震対策を推進するとともに、新型車両N700Sの追加投入及び既存のN700Aタイプに対してN700Sの一部機能を追加する改造工事を進めました。

在来線についても、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に取り組みながら、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行いました。また、名古屋車両区検修庫の建替や高架橋柱の耐震化等の地震対策、降雨対策、落石対策、踏切保安設備改良等を計画的に推進しました。

営業施策については、東海道・山陽新幹線のネット予約・チケットレス乗車サービスである「エクスプレス予約」及び「スマートEX」をより多くのお客様にご利用いただくため、九州新幹線区間へのサービスエリア延伸等の取組みを実施しました。また、ご利用拡大に向けた取組みとして、「定番」から時間、場所、旅先での移動手段や行動をずらした新しい旅として提案している「ずらし旅」とともに、ご自身の「押し」に会いに行く「押し旅」を各種事業者と協力し、新しい内容にアップデートして提案するキャンペーン「押し旅アップデート」を展開するなど、魅力ある旅行商品等を販売しました。さらに、奈良にスポットをあてた新たな観光キャンペーン「いざいざ奈良」を開始しました。加えて、一時的な打ち合わせやWeb会議等にご利用いただける個室タイプの「ビジネスブース」を一部のN700S車内に試験的に導入するなど、車内や駅のビジネス環境の整備に取り組みしました。

超電導磁気浮上式鉄道（以下「超電導リニア」という。）による中央新幹線については、工事実施計画の認可を受けた品川・名古屋間について、用地取得等を進めるとともに、工事については、新たに岐阜県駅（仮称）等で本格的な工事に着手したほか、南アルプストンネル長野工区では本坑の掘削を開始するなど、沿線各地で着実に工事を進めました。引き続き、工事の安全、環境の保全、地域との連携を重視し、コストを十分に精査しつつ、各種工事を着実に進めます。

なお、南アルプストンネル静岡工区においては、静岡県等の理解が得られず、トンネル掘削工事に着手できない状態が続いています。こうした中、大井川の水資源への影響について、国土交通省の「リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議」が昨年12月に取りまとめた「大井川水資源問題に関する中間報告」を踏まえて、工事の一定期間、例外的に県外へ流出するトンネル湧水量と同量が大井川に戻す方策の検討を進め、4月に静岡県に説明しました。また、南アルプスの生態系等の環境保全については、6月に有識者会議において議論が開始されました。引き続き、地域の理解と協力を得られるよう、真摯に対応していきます。

一方、超電導リニア技術については、高温超電導磁石の営業線への投入に向けて、山梨リニア実験線における走行試験と小牧研究施設における検証を実施するなど、さらなるブラッシュアップ及び営業線の建設・運営・保守のより一層のコストダウンに取り組みました。また、中央新幹線の開業に向けて期待感を醸成するため、改良型試験車による超電導リニアの体験乗車を実施しました。

海外における高速鉄道プロジェクトへの取組みについては、米国における高速鉄道プロジェクトについて引き続き着実に取り組んだほか、台湾高速鉄道に対する技術コンサルティングを進めました。また、日本型高速鉄道システムを国際的な標準とする取組みを推進しました。

鉄道以外の事業については、JRセントラルタワーズと開業5周年を迎えたJRゲートタワーを一体的に運営し、収益の拡大を図りました。また、「東京駅一番街」等の駅商業施設のリニューアルに向けた準備を進めるとともに高架下開発を行うなど、競争力、販売力の強化に努めました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における全体の輸送実績(輸送人キロ)は、前年同期比80.9%増の111億3千8百万人キロとなりました。また、営業収益は前年同期比71.3%増の3,093億円、経常利益は668億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は470億円となりました。

これをセグメントごとに示すと次のとおりです。

① 運輸業

東海道新幹線については、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に取り組みながら、「のぞみ12本ダイヤ」を活用して、需要にあわせた弾力的な列車設定を行いました。また、土木構造物の健全性の維持・向上を図るため、不断のコストダウンを重ねながら大規模改修工事を着実に進めるとともに、地震対策については、脱線防止ガードの敷設を進めるなど、東海道新幹線全線を対象にした脱線・逸脱防止対策に取り組んだほか、鉄道設備の浸水対策について、ハザードマップ等を踏まえて進めました。さらに、車椅子スペースを6席設置したN700Sの投入を進めるとともに、一部の車椅子対応座席における「エクスプレス予約」及び「スマートEX」での予約の試行を実施しました。また、引き続き新型車両N700Sの追加投入及び既存のN700Aタイプに対してN700Sの一部機能を追加する改造工を進めました。加えて、可動柵について新大阪駅20番線ホームへの設置工を進めるなど、安全・安定輸送の確保と輸送サービスの一層の充実に取り組みました。

在来線についても、東海道新幹線同様、お客様に安心してご利用いただけるよう感染拡大防止に取り組みながら、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行いました。また、名古屋車両区検修庫の建替や高架橋柱の耐震化等の地震対策を引き続き進めるとともに、降雨対策、落石対策、踏切保安設備改良等を計画的に推進しました。さらに、3月に営業運転を開始した新形式の通勤型電車315系の追加投入とハイブリッド方式の新型特急車両HC85系の営業運転開始に向けた諸準備を進めました。加えて、可動柵について、名古屋駅東海道本線下りホームへの設置工事やQRコードを利用したホーム可動柵開閉システムの導入に向けた準備を行いました。内方線付き点状ブロックについては、整備対象を乗降1千人以上の駅に拡大して取替を進めるなど、安全・安定輸送の確保と輸送サービスの一層の充実に取り組みました。

新幹線・在来線共通の取組みとしては、自然災害や不測の事態等の異常時に想定される様々な状況に対応すべく実践的な訓練等を実施しました。また、地震対策として、駅の吊り天井の脱落防止対策を進めるとともに、駅のプラットホーム上家の耐震補強工を実施しました。

営業施策については、「エクスプレス予約」及び「スマートEX」をより多くのお客様にご利用いただくため、九州新幹線区間へのサービスエリア延伸等の取組みを実施しました。また、令和5年夏に予定している、新幹線とともにホテルや観光プラン等、ご旅行全体をシームレスに予約・決済いただける新サービス「EX-MaaS(仮称)」の開始に向けた諸準備を着実に進めるとともに、「エクスプレス予約」及び「スマートEX」の画面から沿線のホテル等の各種コンテンツにリンクするポータルサイト「EX旅のコンテンツポータル」について、旅の目的となるコンテンツを充実させました。さらに、今後のご利用拡大に向け、これからの新しい旅として提案している「ずらし旅」や「推し旅アップデート」について、特設サイトやTwitterアカウントにて発信するとともに、沿線自治体や各種事業者と連携しながら魅力ある旅行商品等を販売しました。また、奈良にスポットをあてた新たな観光キャンペーン「いざいざ奈良」を開始したほか、京都、東京、飛騨等の観光資源を活用した各種キャンペーンの展開を行いました。さらに、一時的な打ち合わせやWeb会議等にご利用いただける個室タイプの「ビジネスブース」を一部のN700S車内に試験的に導入するなど、お客様のワークスタイルに応じた移動時間をお過ごしいただけるよう、車内や駅のビジネス環境の整備に取り組みました。

当第1四半期連結累計期間における輸送実績（輸送人キロ）は、東海道新幹線は前年同期比105.8%増の92億1千2百万人キロ、在来線は前年同期比14.6%増の19億2千6百万人キロとなりました。

バス事業においては、感染拡大防止に取り組みながら、安全の確保を最優先として顧客ニーズを踏まえた商品設定を行い、収益の確保に努めました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比85.0%増の2,510億円、営業利益は773億円となりました。

② 流通業

流通業においては、「ジェイアール名古屋タカシマヤ」と開業5周年を迎えた「タカシマヤ ゲートタワーモール」において、顧客ニーズを捉えた営業施策を展開するとともに、イオンモール岡崎に食料品売場を出店するなど、収益力の強化に努めました。また、駅やホテルの人気商品やオリジナル鉄道グッズ等を取り揃えた多彩なオンラインショップが集う新ショッピングサイト「JR東海 MARKET」では、「のぞみ」号が運行開始30周年を迎えたことを記念した商品のほか、引退した新幹線車両のアルミニウムを再利用した「新幹線再生アルミ」を用いた商品を新たに販売するなど、商品力の強化に取り組みました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比42.7%増の314億円、営業利益は13億円となりました。

③ 不動産業

不動産業においては、JRゲートタワーにおいて開業5周年をテーマに様々な企画を開催したほか、「東京駅一番街」等の駅商業施設のリニューアルに向けた準備や高架下開発を行うなど、競争力、販売力の強化に取り組みました。また、駅構内や駅直結ビル等におけるワークスペース事業「EXPRESS WORK」のさらなる拡充に向けた準備を進めました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比9.4%増の183億円、営業利益は前年同期比20.8%増の50億円となりました。

④ その他

ホテル業においては、感染拡大防止に取り組みながら、高品質なサービスの提供に努めました。

旅行業においては、これからの新しい旅として提案している「ずらし旅」と連動し、京都、奈良、東京、飛騨等の各方面へ向けた魅力ある旅行商品を販売したほか、「推し旅アップデート」として各種事業者と協力した新たな観光プランを販売しました。

鉄道車両等製造業においては、鉄道車両や建設機械等の受注・製造に努めました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間における営業収益は前年同期比15.5%増の503億円、営業損失は0.4億円となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想については、令和4年3月期決算発表時から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和4年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	331,651	334,233
中央新幹線建設資金管理信託	※1 1,813,068	※1 1,698,223
受取手形、売掛金及び契約資産	54,569	50,508
未収運賃	44,193	52,826
有価証券	328,500	386,200
棚卸資産	34,369	33,851
その他	76,518	81,278
貸倒引当金	△106	△72
流動資産合計	2,682,764	2,637,048
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,354,261	1,340,309
機械装置及び運搬具(純額)	272,900	286,122
土地	2,356,728	2,356,696
建設仮勘定	1,382,891	1,400,299
その他(純額)	40,879	51,365
有形固定資産合計	5,407,662	5,434,792
無形固定資産	142,072	142,966
投資その他の資産		
投資有価証券	772,089	739,670
繰延税金資産	260,389	262,822
その他	186,087	187,164
貸倒引当金	△545	△518
投資その他の資産合計	1,218,020	1,189,139
固定資産合計	6,767,755	6,766,898
資産合計	9,450,519	9,403,946

(単位 百万円)

	前連結会計年度 (令和4年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和4年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	75,970	65,322
短期借入金	30,738	31,273
1年内返済予定の長期借入金	87,777	87,777
1年内に支払う鉄道施設購入長期未払金	6,529	6,529
未払法人税等	6,409	21,935
賞与引当金	22,493	16,245
その他	507,395	429,522
流動負債合計	737,314	658,605
固定負債		
社債	890,754	900,766
長期借入金	436,642	436,642
中央新幹線建設長期借入金	※1 3,000,000	※1 3,000,000
鉄道施設購入長期未払金	519,988	519,988
新幹線鉄道大規模改修引当金	35,000	26,250
退職給付に係る負債	180,830	181,455
その他	40,736	39,360
固定負債合計	5,103,953	5,104,464
負債合計	5,841,267	5,763,070
純資産の部		
株主資本		
資本金	112,000	112,000
資本剰余金	53,474	53,474
利益剰余金	3,449,334	3,483,531
自己株式	△103,159	△103,159
株主資本合計	3,511,649	3,545,845
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46,912	44,242
退職給付に係る調整累計額	5,516	5,176
その他の包括利益累計額合計	52,428	49,418
非支配株主持分	45,173	45,612
純資産合計	3,609,252	3,640,876
負債純資産合計	9,450,519	9,403,946

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)
営業収益	180,628	309,342
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	166,071	183,967
販売費及び一般管理費	39,862	41,834
営業費合計	205,934	225,801
営業利益又は営業損失(△)	△25,306	83,540
営業外収益		
受取利息	613	534
受取配当金	1,727	2,140
受取保険金	1,242	16
その他	2,257	1,317
営業外収益合計	5,841	4,008
営業外費用		
支払利息	11,077	11,161
鉄道施設購入長期未払金利息	8,652	8,558
その他	992	991
営業外費用合計	20,722	20,710
経常利益又は経常損失(△)	△40,188	66,838
特別利益		
工事負担金等受入額	20	135
その他	2,401	31
特別利益合計	2,421	167
特別損失		
固定資産圧縮損	14	45
固定資産除却損	142	307
その他	48	23
特別損失合計	205	376
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△37,972	66,629
法人税等	△9,787	19,024
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△28,184	47,604
非支配株主に帰属する四半期純利益	257	603
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△28,442	47,001

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△28,184	47,604
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,516	△2,711
退職給付に係る調整額	△476	△321
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	△39
その他の包括利益合計	△5,000	△3,073
四半期包括利益	△33,185	44,531
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△33,093	43,991
非支配株主に係る四半期包括利益	△91	540

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 中央新幹線の建設の推進のため、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構より資金を借り入れ、分別管理を目的として信託を設定しています。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて税金費用を計算しています。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染症の影響により、鉄道等のご利用が大幅に減少しています。新型コロナウイルス感染症の収束時期等を合理的に予想することは困難ですが、新型コロナウイルス感染症の対策が進む中で、社会経済活動が活性化されていくことを考慮して、鉄道事業において、当連結会計年度の第3四半期連結会計期間平均で平成30年度比80%までご利用は回復していくと仮定し、会計上の見積りを行っています。

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自 令和3年4月1日 至 令和3年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高							
外部顧客への売上高	133,447	19,996	9,247	17,936	180,628	—	180,628
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,278	2,024	7,493	25,685	37,481	△37,481	—
計	135,725	22,021	16,740	43,622	218,109	△37,481	180,628
セグメント利益又は損失(△)	△23,877	△2,371	4,153	△2,887	△24,983	△323	△25,306

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル業、旅行業、広告業、鉄道車両等製造業及び建設業等を含んでいます。

2 セグメント利益又は損失の調整額△323百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

当第1四半期連結累計期間(自 令和4年4月1日 至 令和4年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位 百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高							
外部顧客への売上高	248,638	29,505	10,581	20,617	309,342	—	309,342
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,442	1,925	7,730	29,767	41,866	△41,866	—
計	251,080	31,431	18,311	50,385	351,208	△41,866	309,342
セグメント利益又は損失(△)	77,385	1,372	5,018	△43	83,732	△191	83,540

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル業、旅行業、広告業、鉄道車両等製造業及び建設業等を含んでいます。

2 セグメント利益又は損失の調整額△191百万円は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間から、「ホテル・サービス業」及び「鉄道車両等製造業」について量的基準を満たさなくなったため、「その他」に含めて記載する方法に変更しています。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しています。

令和4年度第1四半期連結決算概要

令和4年7月27日
東海旅客鉄道株式会社

- ・新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、東海道新幹線・在来線ともにご利用が増加したことなどから、**連結営業収益は前年と比べ増加**。
- ・営業費は、当社の物件費やグループ会社における売上原価の増等により増加したが、**各利益は黒字に転換**。
- ・通期の業績予想については、**前回予想を据え置く**。引き続き、安全・安定輸送の確保を最優先に輸送機関としての使命を果たしつつ、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営状況から脱却すべく、種々の取組みにより収益の拡大に取り組むほか、「業務改革」を強力に推進し、経営体力の再強化を図る。

1. 連結損益の概要

(1) 営業収益 3,093億円（対前年同期+1,287億円、71.3%増）

- ・当社の**運輸収入は、対前年同期1,132億円（92.4%）増の2,358億円**。
 - ・東海道新幹線については、「のぞみ12本ダイヤ」を活用して、需要にあわせた弾力的な列車設定を行うなど、輸送サービスの充実に取り組んだ。また、「ずらし旅」や「押し旅アップデート」の展開等、魅力ある旅行商品等を販売したほか、奈良にスポットをあてた新たな観光キャンペーン「いざいざ奈良」を開始した。さらに、一時的な打ち合わせやWeb会議等にご利用いただける個室タイプの「ビジネスブース」を一部のN700S車内に試験的に導入するなど、車内や駅のビジネス環境の整備に取り組んだ。
 - ・在来線については、「しなの」、「ひだ」等の特急列車について、需要にあわせ弾力的に増発や増結を行い、ご利用の拡大に努めた。
 - ・上記の結果、東海道新幹線の運輸収入は対前年同期1,089億円（102.1%）増の2,156億円、在来線の運輸収入は対前年同期43億円（27.3%）増の201億円となった。
- ・鉄道以外の事業においては、JRセントラルタワーズと開業5周年を迎えたJRゲートタワーを一体的に運営し、顧客ニーズを捉えた営業施策を展開するなど収益の拡大を図った結果、グループ全体でも増収。

(2) 営業費 2,258億円（対前年同期+198億円、9.6%増）**(3) 営業利益 835億円（対前年同期+1,088億円）****(4) 営業外損益 △167億円（対前年同期△18億円）****(5) 経常利益 668億円（対前年同期+1,070億円）****(6) 親会社株主に帰属する四半期純利益 470億円（対前年同期+754億円）**

2. 令和4年度の業績予想

- ・通期の業績予想については、前回予想を据え置く。

※ 金額は単位未満端数切捨（補足説明資料2以降についても同じ）

比較第1四半期損益計算書【連結】

(単位 億円、%)

科 目	令和3年度	令和4年度	増 減	前期比
営 業 収 益	1,806	3,093	1,287	171.3
運 輸 業	1,334	2,486	1,151	186.3
流 通 業	199	295	95	147.6
不 動 産 業	92	105	13	114.4
そ の 他	179	206	26	114.9
営 業 費	2,059	2,258	198	109.6
営 業 損 益	△ 253	835	1,088	—
営 業 外 損 益	△ 148	△ 167	△ 18	112.2
営 業 外 収 益	58	40	△ 18	68.6
営 業 外 費 用	207	207	△ 0	99.9
経 常 損 益	△ 401	668	1,070	—
特 別 損 益	22	△ 2	△ 24	—
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 損 益	△ 379	666	1,046	—
法 人 税 等	△ 97	190	288	—
四 半 期 純 損 益	△ 281	476	757	—
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 四 半 期 純 損 益	2	6	3	234.6
親会社株主に帰属する四半期純損益	△ 284	470	754	—
四 半 期 包 括 利 益	△ 331	445	777	—

(注) 営業収益の内訳は、セグメント別の外部顧客への売上高

比較第1四半期損益計算書【単体】

(単位 億円、%)

科 目	令和3年度	令和4年度	増 減	前期比
営 業 収 益	1,379	2,534	1,155	183.8
運 輸 収 入	1,225	2,358	1,132	192.4
そ の 他 の 収 入	153	175	22	114.7
営 業 費	1,597	1,738	141	108.8
人 件 費	437	440	3	100.7
物 件 費	623	720	96	115.5
租 税 公 課	91	97	6	106.7
減 価 償 却 費	445	481	35	108.0
営 業 損 益	△ 218	795	1,014	—
営 業 外 損 益	△ 163	△ 172	△ 9	105.6
営 業 外 収 益	45	35	△ 9	79.5
営 業 外 費 用	208	208	△ 0	100.0
経 常 損 益	△ 382	622	1,004	—
特 別 損 益	17	△ 0	△ 17	—
税引前四半期純損益	△ 364	622	987	—
法 人 税 等	△ 101	187	288	—
四 半 期 純 損 益	△ 263	435	698	—

輸送人キロおよび運輸収入の比較（第1四半期）

(単位 百万人キロ、億円、%)

			令和3年度	令和4年度	増減	前期比
輸送人キロ	新幹線	定期	255	277	22	108.7
		定期外	4,221	8,935	4,714	211.7
		合計	4,476	9,212	4,736	205.8
	在来線	定期	1,247	1,254	7	100.6
		定期外	434	672	238	155.0
		合計	1,680	1,926	246	114.6
	合計	定期	1,502	1,531	30	102.0
		定期外	4,655	9,607	4,952	206.4
		合計	6,157	11,138	4,982	180.9
	運輸収入	新幹線	定期	30	32	2
定期外			1,036	2,123	1,087	(69.0) 204.9
合計			1,067	2,156	1,089	(69.0) 202.1
在来線		定期	76	77	0	(85.6) 100.7
		定期外	81	124	42	(72.0) 152.4
		合計	158	201	43	(76.7) 127.3
合計		定期	107	110	2	(80.6) 102.4
		定期外	1,118	2,248	1,130	(69.2) 201.1
		合計	1,225	2,358	1,132	(69.6) 192.4
合計 (小荷物含む)		1,225	2,358	1,132	(69.6) 192.4	

- (注) 1. 当社単体に係る輸送人キロおよび運輸収入を記載
 2. 輸送人キロは単位未満端数四捨五入
 3. 前期比欄の()内は、平成30年度との比較を記載

比較第1四半期貸借対照表【連結】

(単位 億円)

科 目	令和3年度 期 末	令和4年度 第1四半期末	増 減
流 動 資 産	26,827	26,370	△ 457
うち 中央新幹線建設資金管理信託	18,130	16,982	△ 1,148
固 定 資 産	67,677	67,668	△ 8
有 形 ・ 無 形 固 定 資 産	55,497	55,777	280
投 資 そ の 他 の 資 産	12,180	11,891	△ 288
資 産 合 計	94,505	94,039	△ 465
流 動 負 債	7,373	6,586	△ 787
固 定 負 債	51,039	51,044	5
負 債 合 計	58,412	57,630	△ 781
純 資 産 合 計	36,092	36,408	316
負 債 純 資 産 合 計	94,505	94,039	△ 465

(再掲) 長期債務	49,416	49,517	100
中央新幹線建設長期借入金	30,000	30,000	-
社 債	8,907	9,007	100
長 期 借 入 金	5,244	5,244	-
鉄道施設購入長期未払金	5,265	5,265	-

参考:比較第1四半期セグメント別営業損益

(単位 億円、%)

科 目		令和3年度	令和4年度	増 減	前期比
営 業 収 益	運 輸 業	1,357	2,510	1,153	185.0
	流 通 業	220	314	94	142.7
	不 動 産 業	167	183	15	109.4
	そ の 他	436	503	67	115.5
	調 整 額	△ 374	△ 418	△ 43	111.7
	計	1,806	3,093	1,287	171.3
セグメント損益 (営 業 損 益)	運 輸 業	△ 238	773	1,012	-
	流 通 業	△ 23	13	37	-
	不 動 産 業	41	50	8	120.8
	そ の 他	△ 28	△ 0	28	1.5
	調 整 額	△ 3	△ 1	1	59.1
	計	△ 253	835	1,088	-

- (注) 1. セグメント別の営業収益は、外部顧客への売上高のほか、他セグメントへの売上高を含む
2. 「調整額」欄は、セグメント間取引の相殺消去